

有害鳥獣・エゾシカ捕獲に伴う支援制度の継続

■ 現 状

エゾシカやアライグマなどの野生鳥獣による、農作物への被害や生態系への影響が、依然深刻な状況になっています。

特にエゾシカによる農作物被害は増加傾向にあり、農業者の生産意欲の減退、ひいては離農へと追い込まれる状況も憂慮されています。

現在、猟友会及び関係機関等と連携し、被害防止対策や捕獲を行い、有害鳥獣の個体数減少及び農業被害の減少に取り組んでいます。

また、狩猟免許を営農者自らが取得し、自己防衛にもあたっているところですが、確たる解決策になっていないのが現状です。

■ 課 題

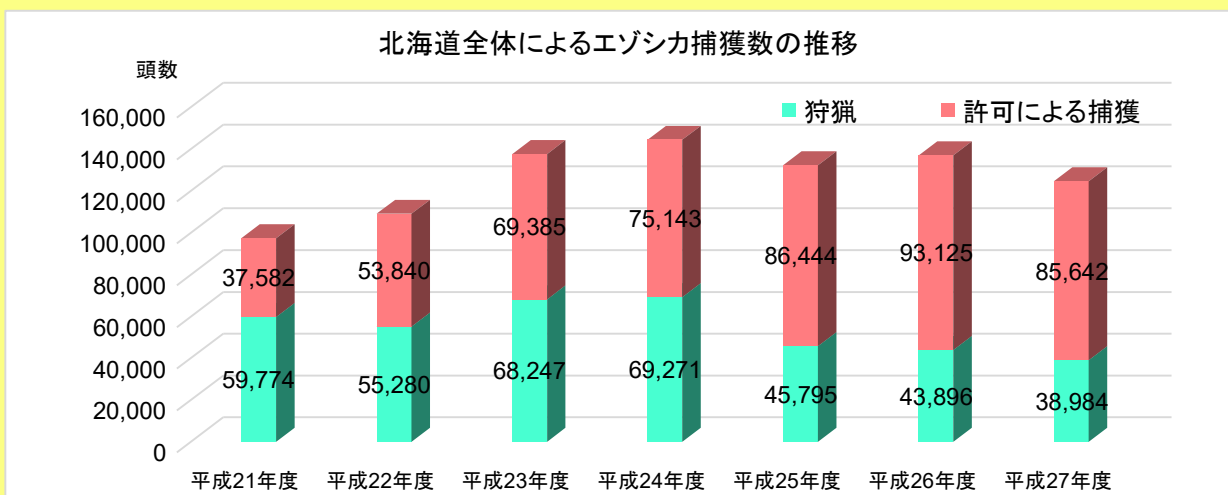
各関係機関が、野生鳥獣による農作物被害を抑えるため、猟友会と連携し捕獲を行っていますが、会員の高齢化や若年ハンターが少ないことにより、有害鳥獣の個体数減少につながっていません。

より一層、猟友会と連携を図りながら、担い手の育成、確保に取り組むことが早急な課題です。

■ 要 望 内 容

● 猟友会会員の高齢化等に伴い減少している担い手の育成のための狩猟免許取得、自己防衛を行う営農者の狩猟免許取得に対する助成等の財政支援

● 市町村単位での捕獲の取り組みには限界があるため、早急かつ実効性のある北海道主導による具体的な政策の確立



■ 事 業 効 果

● 狩猟免許を取得する営農者または担い手の増加により、有害鳥獣の個体数の減少及び農作物被害の減少が図られることが期待されます。